

白藍塾オリジナル

2012入試小論文分析&解答のヒント

2012年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・文学部

二つの課題文から成る。二つの課題文ともに、iPadなどの機器を通して読む電子書籍について語っている。Aの文章は、これから紙の本に代わって電子書籍が主体になっていくであろうことを肯定的に捉え、「宇宙図書館」の到来について期待している。つまり、電子化することによって、世界中のこれまでの文献のすべてを購読できるようになるのではないかという期待だ。そして、日本の書籍を世界に発信することを提案している。Bの文章は、電子書籍化を時代の変化としてやむを得ないこととみなし、かくなるうへは、著作権の切れた日本の本を、手書きの写本なども含めて、可能な限りとりこみ、小学生にくずし字を教えて、それらを読めるようにするべきだと提言している。

二つの文章に共通する点は3点ある。①積極的ではないにしても、電子化が進むことを受け入れている。②昔からの文献のすべてを電子書籍として読めるようにするべきだと考えている。③これを機会に、日本の書籍を復権させるべきだと考えている（Aの文章では外国の人が読むように促そうという提言、Bの文章では日本の小学生がくずし字を読めるように教育するべきだという提言がなされている）。

設問Ⅰは二つの文章の共通点が尋ねられているので、この3点を説明すればよいが、このうち二つの文章の共通点が最も強いのが②だ。①の共通点はあまりに基本的、③については共通しない部分もある。よって、②に重点を置くのが望ましい。前半に軽く3点の共通点に触れて、後半で②をくわしく説明する形をとるとうまく書ける。

設問Ⅱでは、これまでの読書経験を踏まえた上で本の将来像について書くことが求められている。が、課題文の主張を無視するべきではない。二つの課題文は、過去の文献をできるだけすべて取り込むことを強く主張しているので、それとからめて考えるのが望ましい。「古今のあらゆる文献が読めるようになる」という将来像を示したうえで、その是非を

論じるのが正攻法。自分の読みたい本の例を示し、それが自由に読めるようになる状況、そのメリットを示すといいだろう。あるいはこの状況を否定的に捉えて、あまりに文献が膨大であるために、「読むべき本」が何なのかわからなくなり、じっくりと思索しながら読む習慣をなくして、むしろ多くの人が本を単に消費財としてしまう状況を考えるのもいい。

あるいは、課題文をもっと発展させ、本の将来像として、翻訳ソフトが発達した状況を踏まえて、古今東西の本のすべてを翻訳も含めて読めるようになる状況を示すこともできる。ただし、「論じなさい」とあるので、本の将来像を単に説明するだけでなく、その是非、あるいは、本当にそれが実現するかどうかなどを「論じる」必要がある。

なお、二つの文章の共通点を「電子書籍化が進む」という認識と捉えて、その是非を論じるのも許容範囲だと思われるが、高レベルな答案にはならない。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>